

令和6年度 学校教育自己診断結果について

【生徒】

＜評価の高い項目＞90%以上

- ・学校は1人1台端末を効果的に活用している。93.6%
- ・農芸高校で良き友人に恵まれたと思う。92.9%
- ・先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている。92.7%
- ・学習の評価は、テストの得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている。92.2%
- ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。92.2%

※他7項目で90%以上の肯定率（心と体の配慮、進路情報、人権、いじめ等の項目）

＜評価の低い項目＞80%未満

- ・授業（座学）はわかりやすく楽しい。77.2%
- ・農芸高校では、生徒会活動が盛んである。75.0%
- ・農芸高校は、放課後等のクラブ活動が充実している。66.2%

【生徒分析】

昨年同様、現3年生の全体の肯定率が他学年の評価と比べ低い傾向にあるが、生徒は学校生活における満足度は87.7%と高く、特にLGHの指定を受けていることもあり、1人1台端末の活用についても非常に高い結果となっている。ICTの活用で授業改善が進んだと考えられる。教育相談についての評価は教育相談体制の見直しにより「学校は教育相談（カウンセリング）の体制が確立している。」という質問に体制88.7%の肯定率となった。

低い項目としては、生徒会（クラブ活動）の充実が必要であるが、放課後の実習があるため、生徒会クラブの勧誘などを積極的に行う必要がある。

【保護者】

＜評価の高い項目＞90%以上の項目

- ・農芸高校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った生徒を育てようとしている。94.2%
- ・学校は、子どもに生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている。94.2%
- ・先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている。92.9%
- ・生徒の学習の評価は、適切・公平に行われている。92.6%
- ・授業中や放課後に、けがや体調が悪くなった時など、学校は適切に処置をしてくれる。92.3%
- ・農芸高校は、保護者の願いに応えている。91.7%
- ・学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。91.1%

・体育祭、農芸祭などの学校行事は、みんなが積極的に参加できるよう工夫されている。91.1%

＜低い項目＞80%未満

- ・農芸高校は、放課後等のクラブ活動が充実している。56.3%
- ・子どもは、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。76.0%
- ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。76.9%

- ・英検や漢検などの資格取得や農業関係の検定合格に向けた取り組みが行われている。79.1%

【分析】

- ・学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行なっている。77.7%

保護者全般の満足度は高く、学習評価、学校生活、教育方針に理解を示していると感じられる。働き方改革のため電話の応答について時間外は対応しないようにした事により、意思疎通の部分で低い評価となっているが、保護者サイトの活用促進と理解を深めてることにより、77.7%であったが81.3%となった。今後、放課後のクラブ活動や授業改善に取り組み座学部分での授業改善に取り組む必要がある。施設設備面においても老朽化が進んでいることから更新も必要である。

【教員】

<高い項目>90%以上

- ・農芸高校の教員は、常に自己研鑽を積み、自らの教育力向上に努めている。93.2%
- ・農芸高校の教員は、参加体験型の学習やグループ学習、思考力重視の問題解決型学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を図っている。97.7%
- ・農芸高校の教員は、生徒の悩みや相談に親身になって応じている。97.7%
- ・学校は、授業中や放課後に、生徒がけがをしたり体調が悪くなった時など、適切に処置をしている。93.2%
- ・学校は薬物乱用防止や性感染症予防の啓発など、生徒の心と体の健康に配慮している。93.2%
- ・コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。93.2%

※他3項目で90%以上の肯定率（保護者の願い、授業改善、きめ細な指導の項目）

<低い項目>50%未満

- ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。31.8%
- ・研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。36.4%
- ・職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。40.9%
- ・教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。40.9%
- ・教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。47.7%
- ・各科や各分掌、各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。47.7%

【分析】

教員は、授業改善に熱心に取り組んでおり、授業アンケートの結果からもICTの活用・グループ学習を取り入れた授業などが多く行われていることから評価が高いと思われる。教育相談についてそれぞれで相談に乗っていることから、生徒・教員双方の評価が高い。

施設設備面の改善、研修成果の報告、会議での情報交換、学年分掌の連携、授業見学など次年度に向けて改善していく必要がある。人事面においても講師の増加などにより様々な影響がある。